

笹川保健財団 地域啓発活動助成
助成番号：2021－010（必ずご記載下さい）

2022 年 3 月 1 日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜 多 悦 子 殿

2021 年度地域啓発活動助成 活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

地域・在宅で最期まで生ききる、過ごすということ

活動者（助成申請者）名： 長内 さゆり

活動の目的

病院死が日常となっている現代において、住み慣れた地域や在宅で最期まで自分らしく過ごし、生きることについて、どんな意味があるのか、どのような方法があるのか、更に人生会議についても地域住民に向けて啓発すること。

また、ホームホスピスという理念、役割について地域住民に理解してもらいたいこと。

意義

未だ、非日常となっている在宅療養や在宅看取りについて、講演会等の市民講座を行うことにより、在宅療養や見取りの意味および在宅サービスの種類や活用方法について地域住民に理解・周知してもらうことができる。

ACPの大切さ、元気なうちからどのようなように自分らしく生きていくのか、もしもの時にどのような最期・看取りを行うのかを考えてもらうきっかけになる。
終の棲家としての選択肢の一つとして考えてもらえる。

活動の方法

【活動の準備】

市民フォーラムを計画

ホームホスピス北海道（北海道にホームホスピスを作る会（仮称））でフォーラムを開始する準備を始める。

月に1回程度、zoomにて会議を実施した。市民フォーラムの日程、場所、形式、基調講演に依頼する医師または看護師の選出、場所、開催方法、役割およびアンケート内容を決めていった。
日程を12月4日（土）の午後とし、場所を札幌エルプラザ大研修室とし予約した。大研修室は100名収容可能であるが、感染対策を施すため、会場には60名程度とする。

実施形式：基調講演と医師・看護師・介護士によるシンポジウム。感染対策を施し会場と会場に来ることができない方に対して、オンラインシステム（zoom等）で実施することとした。

チラシを作成し、札幌市の各区役所、医療機関、介護施設、老人クラブ等の人の多く集まる場所に配布した。さらにFace book等を利用して広報した。

開催時にはアンケートを配布するため、所属機関（天使大学）の倫理審査委員会の承認を得た。

【市民フォーラムの開催】

対象者：地域住民 医療・介護福祉他、どなたでも参加可能

日時：2021年12月4日（土）13：30～16：30

実施方法：

会場（札幌エルプラザ）札幌市男女共同参画センター 4階大研修室）とWEBからの同時配信）

札幌市北区北8条西3丁目28

実行委員長：長内さゆり（天使大学 地域在宅看護学領域 在宅看護専門看護師）

基調講演：前野宏先生（札幌南徳州会病院 総長） 13：45～14：45

「ホスピスのところとホームホスピス」

パネルディスカッション：「地域でみとった方のケアを通して…」 14：50～16：20

パネラー：一木崇宏先生（ホサナケアミリークリニック理事長・院長）

吉井みゆきさん（合同会社やまざくら代表 のぞみ訪問看護ステーション緩和

ケア認定看護師）

軍司 望さん（小規模多機能型介護ホサナホーム 介護福祉士）

（※当初野村志穂さんを予定していたが、急遽軍司さんへ変更となった）

野村志穂さん（小規模多機能型介護ホサナホーム 介護福祉士）

コメンテーター：前野宏先生

参加者は、オンライン参加約60名、会場参加41名、スタッフを含めて120名程であった。

基調講演では、前野先生からホスピスケアでは、患者（療養者）も医療者も一人の人として関わる
ことが大切であること、温かいおもてなしの心（ホスピスのところ・精神）が重要である。これら
は、ホスピスを含む病院でも在宅でも同じであること、患者（療養者）の望む場所で望むように最
期を迎えられるようにしていくこと、大切さを発信していく役割があるという内容であった。スラ
イドでは、在宅療養者の写真（本人・家族の了解済み）もあり、臨場感ある講演で、心が温ま
った。

また、パネルディスカッションでは、在宅医と訪問看護師が小規模多機能居宅で連携・協働して
看取った入居者の方事例を示された。日常的なケアを介護職が安心感を持ってもらえるよう接し、
痛みや不安を和らげるために訪問看護師と医師と常に情報を共有して対応していた。

介護職、訪問看護師、在宅医のそれぞれの関わり方、思い等を述べ、それぞれの職種の温かな心
づかい、苦勞等も聞かれた。

基調講演、パネルディスカッション後の質疑応答では、70代の市民の方から身内の在宅療養につ
いて、宗教家の方からのご家族からの相談事についてなどの質問があった。

終了後のアンケートでは、63名から回答を得られた。

年代の内訳は、40代と50代で約60%を占めた。職業は、医療関係者と介護・福祉関係者で60%を占
め、その他は無職・会社員・学生等の市民であった。

「ホスピス」についての理解も「その人の望む生活を最期まで快適に過ごせるおもてなしのところに
あふれた暮らしの場」「癒しの場」「ホスピスは場所ではなく、苦痛や悲しみを緩和し、家族や周りの

つながりを保つ場である」「自分らしく過ごせる場という意味がある」「場ではない精神」「あたたかいおもてなしのころ」等であった。

「ホームホスピス」について、「ホームホスピスというものがあることを初めて知った」「自分の家のように過ごせる場」「家庭に近い環境で過ごせることはとても良い、最期まで安心して過ごせる場所としても重要だと思う」「北海道にまだないということに驚いた。札幌に是非作って欲しい」等であった。

その他の意見では、「自分自身は、最期まで家で過ごしたいと思っている。それが叶えられるかどうか、今後も考えていきたい」「どのようにしたらホームホスピスが可能なのか？運営と経営の具体的な内容を教えて欲しい」「各ホームホスピスがどのように運営しているかという事、ホスピスのあり方等について多くの人の考えや意見を聞くような会があってもいい」等があった。

年に1回はこのような市民フォーラムを継続し、少子高齢社会、多死社会を迎えている現状をふまえ、自分たちの生き方、さらに今後の生き方、過ごし方を見つめてもらえるように啓発していきたい。来年度は、全国ホームホスピス協会の全国研修会が北海道・札幌市で開催される予定であり、多くの市民に参加してもらえるよう広報し、啓発していきたい。

開催における課題として新型コロナウイルス感染症のため、会場とオンライン（zoom利用）での同時配信というハイブリット形式での開催としたが、回線の状況によって音声や画像が上手く配信できなかったというトラブルがあった。会場には優先のインターネットが接続されておらず、Wi-Fi利用での配信であったこと、費用の関係で業者を頼むことができず、福祉関係の3名の方の支援を受けたがスムーズな配信ができなかった。Zoomの録画機能で録画していたこと、他にビデオカメラで全体を録画していたことで、後日、演者の許可を得て、期日を限定（1週間のみ）し、市民フォーラムの参加者に限ってYouTubeで限定公開を実施し、トラブルのあったところを再視聴してもらうようにした。

同時配信という方法は、会場に来ることができない方や今回のように感染症に留意を必要とする場合等には大変便利ではあるが、トラブルなく配信するためには、技術的なことから業者に依頼することがベストであり、必要なことであると感じた。今後、可能な限り業者に委託したい。

基調講演



パネルディスカッション パネラーからのご発言



地域・在宅で最期まで生きる ～当たり前前の生活を送る～

日時:2021年12月4日(土)13:30～16:30

場所:札幌エルプラザ 札幌市男女共同参画センター4階

大研修室 (Webにて同時配信)

(札幌市北区北8条西3丁目28 札幌駅北口広場向かい)

※新型コロナウイルス感染症の状況により、Web開催のみになる可能性があります

参加費無料!

実行委員長:長内さゆり(天使大学 在宅看護専門看護師)

前野 宏 先生



【プログラム】

◇ ホームホスピス北海道代表挨拶 半澤博恵

◇ 基調講演 前野 宏 先生

(札幌南徳洲会病院 総長)

「ホスピスのこころとホームホスピス」

◇ パネルディスカッション:「地域で看取った方のケアを通して...」

◇ 一木崇宏先生(ホサナファミリークリニック理事長・院長)

◇ 吉井みゆきさん(合同会社山ざくら代表 のぞみ訪問看護ステーション)

◇ 大木さやかさん(小規模多機能型介護ホサナホーム 管理者)

◇ 野村志穂さん(小規模多機能型介護ホサナホーム介護福祉士)

ホームホスピスを北海道に作る活動を始めています。病院死が当たり前になっていく現代において、「住み慣れた地域・在宅で最期まで自分らしく過ごし、当たり前前の生活を送る」ことが当たり前ではなくなっています。自分らしく地域・在宅で当たり前に生きることがどれだけ大切で尊いのか...どのような手段があるのかを地域の皆様に知ってもらいたいと思い企画いたしました。

申し込みは、FAXまたはメールで

お願いします。(裏面)

QRコードからも申し込みできます

どなたでも参加できます!



主催:ホームホスピス北海道

後援:一般社団全国ホームホスピス協会

お問い合わせ、連絡先:イベント実行委員長 長内さゆり 天使大学 地域在宅看護学領域

osandai.sayuri@tenshi.ac.jp TEL 011-741-1051(667) fax 011-741-1077

このイベントは、公益財団法人 笹川保健財団の地域啓発活動助成を受けて開催いたします。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。みなさまのご意見をお聞かせください。当てはまることを○で囲ってください。

※ このアンケート用紙は、アンケートの集計後に破棄いたします。集計データは、報告書提出後3年間保管し、その後、破棄いたします。

該当する項目・番号ひとつに、○で囲ってください。

2. 職業：なし 会社員 学生

医療関係（医師・歯科医・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師など）
介護・福祉関係（社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士 ヘルパーなど）
その他（ ）

3. 活動の場（勤務先等）の形態：

- ①仕事はしていない ②ボランティア ③一般企業
④病院 ⑤診療所 ⑥訪問看護ステーション ⑦地域包括支援センター
⑧介護保険施設 ⑨高齢者の施設 ⑩居宅介護支援事業所 ⑪教育機関
⑫その他（ ）

4. 自分が介護を必要になるのではないかと不安になりますか？

- ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない (分からない)

5. もし、病気や障がいなどで介護が必要になった場合、どこで過ごしたいですか？

- ①自分の家 ②家族（子ども）の家 ③医療施設（病院・ホスピス）
④介護等施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設）
⑤高齢者等住宅（有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅など）

6. もし、病氣や障がいなどで介護が必要になった場合、誰に介護してもらいたいと思いますか？

- ①配偶者（夫・妻） ②子ども ③介護保険を利用したヘルパーや看護師（専門の人）
④介護等施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設）
⑤高齢者等住宅（有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅など）

7. 今日の講演やパネルディスカッションを聞いて、地域や在宅で過ごせると思いましたか？

- ①はい ②いいえ ③わからない

8. ホームホスピスのような所が近所にあるといいと思いますか？

- ①是非あるといい ②あると良 ③思わない ④どちらともいえない

9. 「ホスピス」という意味をどのように理解されましたか？

10. ホームホスピスについてどのように感じましたか？

11. ご意見・ご質問等がありましたらお書きください。

- ご質問等で、回答の欲しい方は、支障のない範囲で、氏名・連絡先（①メールアドレスまたは
fax 番号または住所と②電話番号）を下記にお書きしていただくとお答えが可能です。

氏 名：

.....

連絡先：①メールアドレス

.....

②Fax 番号

.....

③住 所

.....

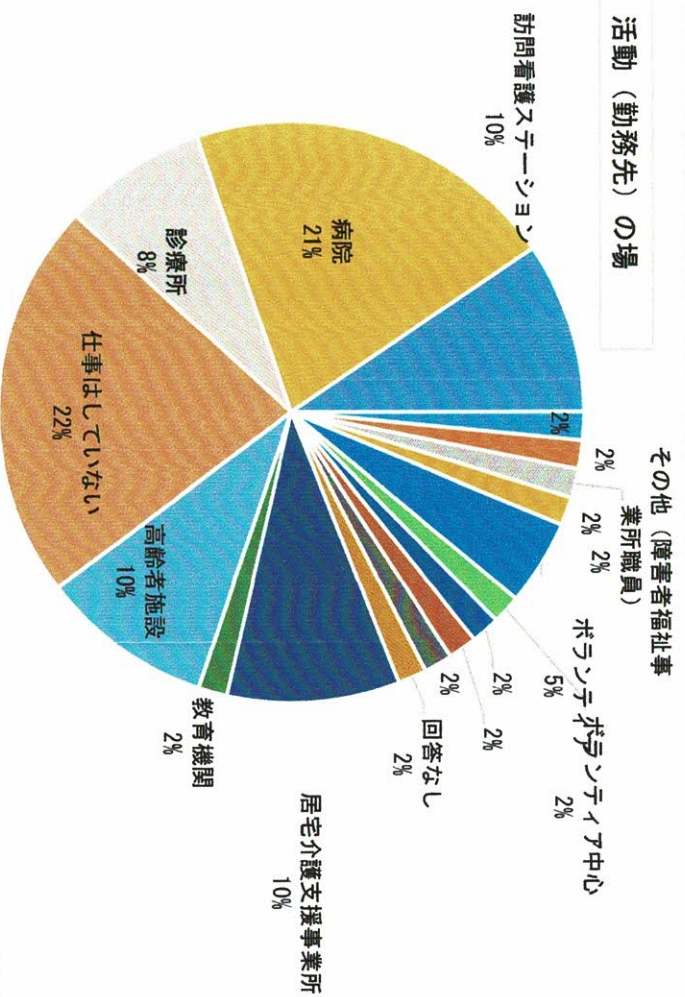
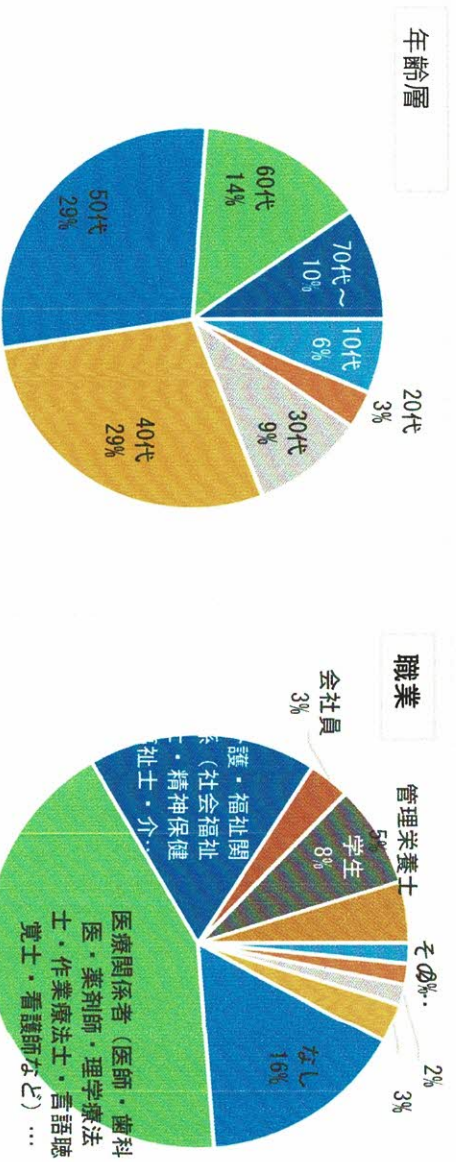
②電話番号

.....

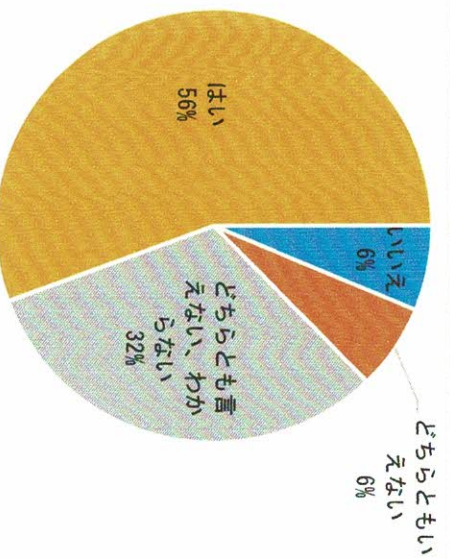
ご協力ありがとうございました。今後ともよろしく願います

本講演会は、笹川保健財団地域啓発活動助成を受けて実施いたしました。アンケートの結果は、実施報告書として提出
し、ホームホスピス北海道講演会に関する研究に使用させていただきます。その他の利用はいたしません。

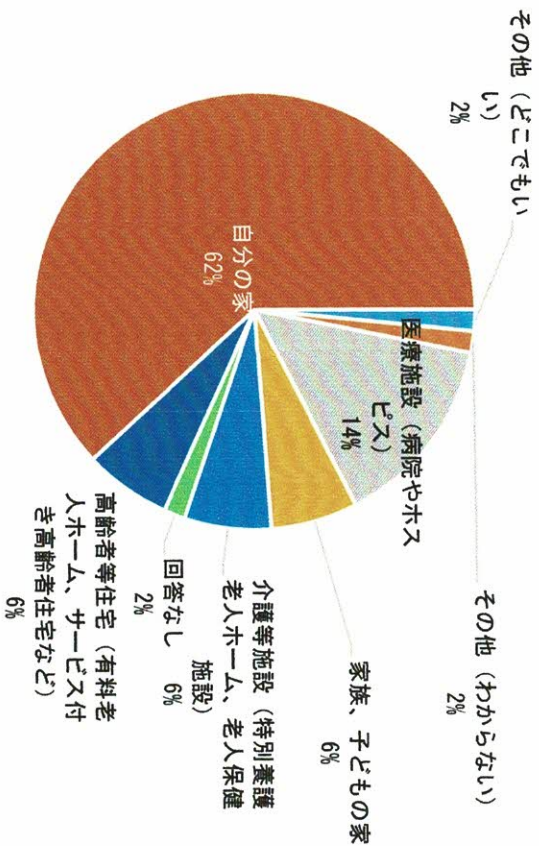
地域・在宅で最期まで生きる、過ごすということ



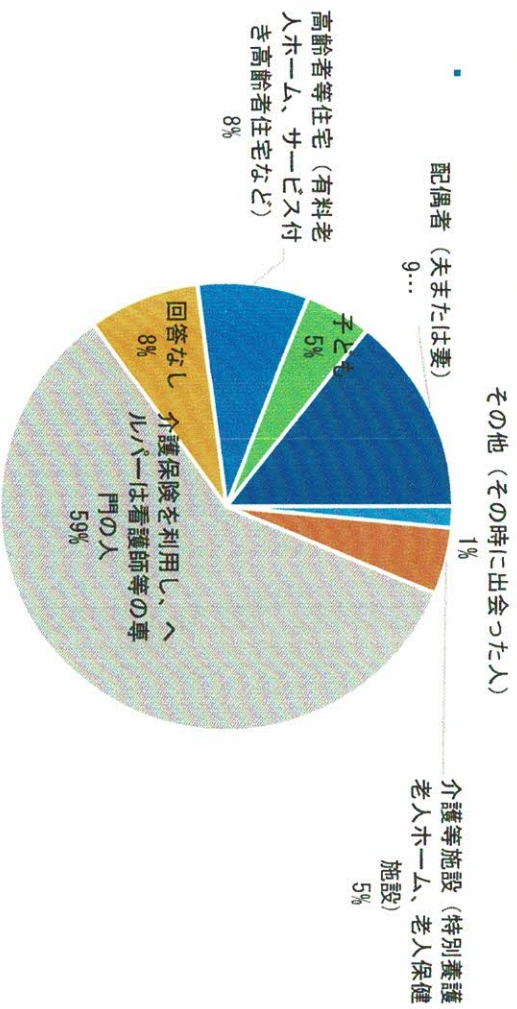
自分が介護を必要となるのではないかと不安になりますか？



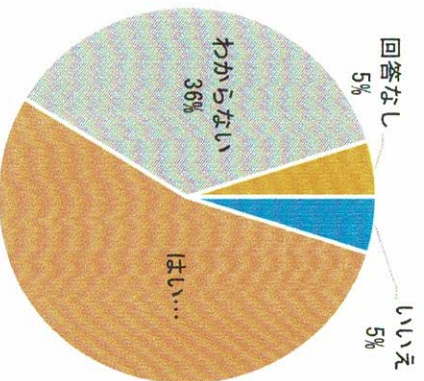
もし、病気や障がいが必要になった場合、どこで過ごしたいですか？



もし、病気や障がいが必要になった場合、誰に介護してもらいたいですか？



講演、パネルでいしカッションから地域や在宅で過ごせると思いませんか？



ホームホスピスのようなところが近所にあると良いと思いますか？

